

私立大学研究ブランディング事業

令和元年度の進捗状況

学校法人番号	231020	学校法人名	愛知医科大学			
大学名	愛知医科大学					
事業名	健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究					
申請タイプ	タイプA	支援期間	平成30	年度～	令和2	年度
参画組織	医学部、看護学部、大学院医学研究科、大学病院、分子医科学研究所、運動療育センター、研究創出支援センター					
事業概要	<p>本事業では、若年者率全国1位、出生率3位を誇る「活力のある若いまち」長久手市との親密な連携関係を基盤に、炎症に関する学内研究を推進して健康状態の客観的評価法を確立するとともに、長久手市職員対象のコホート研究を展開する。これらの研究成果を基に、全年齢層に対応する「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療」システムを構築する。本事業の達成を通じて、健康長寿社会の実現に貢献する大学としての使命を果たす。</p>					
①事業目的	<p>日常生活において、医療機関を受診するほどではないが、何となく体調不良や疲労を感じることもある。また、数多くの疾患は突然発症するのではなく必ず予兆があるが、多くの場合は、炎症反応が生体に生じている。本人が気づかない炎症反応を数値として示すことによって、健康状態を客観的に評価できれば、健康増進へ向けての具体的な方策が立ち、迅速な対処によって疾患の発症を食い止めることができる。</p> <p>本事業の目的は、健常者に潜在する炎症反応の解析を通じて健康状態の客観的評価指標の決定と評価法の確立を行い、特定の因子と疾病発症率との関連を明らかにするコホート研究を「活力のある若いまち」長久手市に立ち上げ、両者の遂行によって「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療」システムを構築することである。健康な若い市民の比率が高い同市との協力でしか達成できない研究であり、その成果は未来の健康長寿社会の実現に繋がるといえる。</p>					
②令和元年度の実施目標及び実施計画	<p>■学内基礎研究とコホート研究 目標①：マウス炎症モデル研究の結果に基づく炎症評価のマーカー候補分子の同定、ならびに上記マーカー候補分子のヒトにおける有効性の判定の開始 目標②：長久手市職員のコホート研究の定着、ならびに事業参加者（本事業を理解し健康状態に対するアンケート調査と採血に参加する健常者ボランティア）の増員</p> <p>■ブランディング戦略 目標A：本事業の趣旨と内容、本学の建学の精神、学是、将来ビジョンに関して周知手段と対象の拡大 目標B：アンケート調査による本学のイメージ、本事業への関心等に関する対象者の認知の解析</p>					
③令和元年度の事業成果	<p>■学内基礎研究とコホート研究 目標①：学内研究公募に係る説明会を実施し、学内研究の選定を行った。マウス炎症モデル研究に関しては「ヒト炎症マーカーとなりうる分子の同定」を見据え、遺伝子改変マウスを所有・解析している各研究室が中心となって研究を推進している。ヒトを対象とする研究に関しては、臨床研究を推進し、本事業学内研究を支持する研究成果を蓄積中である。 目標②：コホート研究の一環である長久手市職員に対する採血及びアンケート調査の実施に向けて、長久手市役所と頻繁な電話連絡、数回にわたる連絡会議の実施を通じて、実施日時（2020年3月上旬）と具体的な段取りまで決定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、長久手市役所と調整の結果、実施を延期することとした。</p> <p>■ブランディング戦略 目標A：本学教職員及び長久手市職員を対象にして、ブランディング事業への理解及び協力を求めることを目的としたキックオフシンポジウムを令和元年10月28日（月）に開催し、情報の共有化を行い、本事業に対する意識を高めることができた。また、本事業ホームページにおいて同シンポジウムについての情報を発信した。 目標B：20歳から60歳までの長久手市民を対象とした本学のイメージ、認知度等に関するアンケート調査について、長久手市役所と実施に向けて検討を行い、実施時期、方法等を決定した。</p>					

<p>④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>研究戦略会議及び私立大学研究ブランディング事業実務者会議において、自己点検・評価を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度については、昨年度実施に至らなかった学内研究グループの選定やキックオフシンポジウムの実施はできたものの、コホート研究の要となる長久手市職員に対する採血が新型コロナウイルス感染症の影響により実施に至らなかった。日程調整は容易ではなかったが諸般の問題を解決すべく努力して年内に採血を実施すべきだった。 ・ブランディング戦略面では、キックオフシンポジウムの開催により事業関係者等に対する情報の共有化を行い、本事業に対する意識を高めることができた。また、併せてホームページ内容の充実を図り、学外に対して情報を発信することができた。 ・研究環境の整備面では、学内の共同研究施設担当者と相談し、学内研究並びに本研究事業の推進に必要と思われる機器の整備を行うこととした。 ・今後は、新型コロナウイルス感染症の動向を見据えながら、事業の推進を加速する具体的な手立てを検討する必要がある。 <p>(外部評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響で活動に制限があったが、研究グループの選定、キックオフシンポジウムの成功など、着実に歩みを進めた。研究はマウスモデルからヒトを対象にしたコホート研究まで広く、これらをまとめて成果を出すのは重要であり挑戦の価値もある。よく練られた年次計画が設定されているので、それぞれの研究の有機的な連携を心掛けて、今後も推進していくと良いと考える。 ・本年度はキックオフシンポジウムとして市民参加を得て開催できたことは大きな前進といえる。数回の長久手市側との折衝の末に日程まで決まっていた採血およびアンケート調査が新型コロナ禍によって延期されたのは残念である。ぜひ来年度での十分な新型コロナ対策をとった実施を期待したい。 ・重要な課題を掲げ、着実に研究活動を続けていると評価できる。なかでも基礎研究と同時にコホート研究を進めていることは高く評価できる。前者に関しては、研究成果を広く社会に発信する努力を期待したい。一方で、後者に関しては、そもそもが長期間を要する研究であることを踏まえ、今後も腰を据えた研究を着実に進めて頂きたい。
<p>⑤令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>キックオフシンポジウムの開催に係る費用として、外部委員への謝金、消耗品等及び長久手市職員に対する採血事業に係る費用として、機器備品、解析に必要な消耗品等に使用した。事業実施に当たり執行した経費は、学内ルールに従い適切に執行した。</p>